

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北関東)	◎	家電量販店（店員）	・エアコンは、省エネ達成率100%以下の製品製造が2027年度からできなくなるため、安価な商材の駆け込み需要で伸びるとみている。
	○	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・飲食店関係の飲料売上が増加するため、やや良くなる。
	○	家電量販店（企画担当）	・エアコンは、夏の最需要期にかけて新たな省エネ基準が開始されることを背景に、更なる需要が拡大し、ひいては家電全体の売上をけん引することが期待される。
	○	一般レストラン（経営者）	・行楽シーズンが来るため、客足は増える見込みである。ただし、客単価がどうなるかは分からない。
	○	都市型ホテル（経営者）	・宿泊業だが、週末の販売量が前年比30%増加している。
	○	タクシー（経営者）	・昼も夜も動きが良くなっているため、この先も良くなる。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・中東情勢が沈静化して平和になれば、経済も落ち着いてくる。安定すれば、現状維持できるかどうかといったところなので、中東情勢次第である。
	□	スーパー（総務担当）	・中東情勢の影響に伴い原油価格が高騰している。先行きが不透明であるため、物価上昇につながっており、景気が良くなる見込みは少ない。
	□	スーパー（商品部担当）	・中東情勢の影響により、食料品等の頻繁な値上げなどで良くなることは考えにくい。ここ数か月の買上点数や客の様子などをみると、厳しい状況がうかがえる。
	□	コンビニ（経営者）	・中東情勢の影響を含め、ナフサやその他関連品の価格が上がり、今後は消費者心理が下がると心配している。
	□	コンビニ（エリア担当）	・来客数は頭打ちで、伸びていない。
	□	コンビニ（エリア担当）	・7～8月は夏休み需要で、一時的に来客数は回復するものの、値上げによる節約志向は継続するため、来店頻度や衝動買いの弱さは変わらない。
	□	コンビニ（店長）	・夏祭りの時期になるため、何とか前年並みの人出になってほしい。
	□	衣料品専門店（経営者）	・現状が大きく変わる見込みはない。
	□	家電量販店（営業担当）	・暑い夏が予想されているが、エアコン取付工事次第である。白物家電の接客強化での単価上昇にも期待している。成約率は前年以上をキープしている。
	□	乗用車販売店（従業員）	・中東情勢等の影響により物価高になると、新車は買い控えあるいは安価な物や中古車を選ぶ傾向になる。
	□	自動車備品販売店（経営者）	・客の雰囲気も落ち着いて上向き傾向にあったが、中東情勢の影響により、この先は余りプラスの傾向にはならないとみている。
	□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・ゴールデンウィークを迎えるため、動向考察が難しい。例年並みを期待したい。
	□	一般レストラン（経営者）	・宴会や弁当があてにならない以上、通常のランチやディナーのメニューをてこ入れして売上を増やすしかなさそうである。
	□	観光型ホテル（経営者）	・この何ともいえない市場の重力感が、6～7月に改善されるとは考えにくい。
□	都市型ホテル（支配人）	・宿泊、料飲部門共に、前年と同様の受注状況にある。	
□	旅行代理店（所長）	・世界情勢や原油問題次第かと考えるが、現段階では不安要素が大きいと言わざるを得ない。	
□	通信会社（総務担当）	・買換え特需が一段落したため、通常の販売量に戻る。	
□	テーマパーク（職員）	・天候やカレンダーの日並びによる影響に加え、原油問題に関連して、ガソリン価格の高騰、石油関連商材、備品や消耗品等の値上げや品不足が発生している。レジャー費が劣後にならないか不安である。	
□	美容室（経営者）	・カラーリング用のゴム手袋は出荷停止と告示され、次は何が止まるかと恐れている。	
□	設計事務所（所長）	・一旦下降した景気が戻るには時間が掛かる。	

▲	商店街（代表者）	・新学期が始まったが、幼稚園児や児童の減少は免れない。また、中東情勢の動き次第で先行きは不透明である。
▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	・報道などでは4月25日から最大12連休のゴールデンウィークといわれているが、昭和の日を挟んだこの1週間は、さほど売上も上がっていない。周辺の観光施設にも行列はできておらず、出足の鈍いゴールデンウィークである。物価上昇と原油価格高騰による値上げのために旅行を控える人が多い。この傾向は原油の供給が安定するまで続くと考えられることから、今後の見通しはやや悪くなる。
▲	百貨店（店長）	・店頭の商品価格が上昇していることや、物価上昇が続き客の節約志向が更に強まると想定されるため、今後は消費が冷え込む可能性が高い。また、中東情勢の不安定化により、エネルギー価格、原材料、物流などへの影響が懸念され、物資や商材の安定的な供給が確保できない状況も、身の回りの景気に影響を与える要因になると考えている。
▲	スーパー（経営企画）	・今以上に物価が上昇すると予想される。
▲	乗用車販売店（経営者）	・中東情勢が落ち着けば、この物価高も一息つけるのではないかと期待している。ただし、上がった物価は簡単には下がらない。
▲	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・給食業務では、新年度からの新規受託先はほぼ例年どおり確保できている。また、既存の受託先も取引条件の引上げに応じてもらっている。ただし、4月以降に値上げを告知されている食材類も多く、今後の農作物の供給懸念を想定すると、収支確保は厳しい状況が続く。
▲	都市型ホテル（スタッフ）	・宴会の来客数、件数の伸びが余り良くない。宴会単価は上がっているものの、原材料価格の高騰を受けて値上げしたもので、肯定的なものではない。原油価格上昇に伴い、食材原価も高騰しており利幅を圧縮している。
▲	旅行代理店（経営者）	・バス代の高騰が気掛かりである。販売量が例年より下がることが予想される。
▲	旅行代理店（従業員）	・物価が下がる傾向にないため、やや厳しい。
▲	タクシー運転手	・5月頃に、タクシー料金の値上げがありそうなので、一時的に、利用客が少なくなるとみている。
▲	通信会社（社員）	・中東情勢の影響により、現時点で当社サービスに必要な機器の納期遅れなどが発生しており、業績への影響を危惧している。
▲	通信会社（営業担当）	・中東情勢が解決しない限り不安が拭えないため、景気悪化となる可能性が高い。
▲	ゴルフ場（従業員）	・物価高の影響に続き、原油価格高騰、電気やガス料金の高騰で、ひっ迫しそうである。また、天候について、例年より気温が高い予報が出ているため、集客にも影響が出てくると予想している。
▲	競輪場（職員）	・制度の改正により、やや悪くなる。
▲	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・建築コスト高、原油問題に伴う建築資材の欠品や納期遅れ、総額コストの再見積りを行ったとしても、融資が決まらない等、問題が続出しており、今後数か月はこうした状態が続くとみている。
×	商店街（代表者）	・中東情勢の影響により様々な資材の供給が滞るといった情報が近隣から聞こえている。株価の高値更新情報とかい離れた市井の状況をどう捉えればよいのか。いずれにしても世界情勢次第で今後の経営方針が変わることは間違いない。
×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・物価高と商材の入荷状況が悪い。客も税金を支払ったばかりで懐事情が余り良くないようで、景気が悪い。今後この状況が続くと倒産する企業が増えてしまうのではないかと危惧している。
×	百貨店（営業担当）	・客の購買意欲低下は想定内だが、取引先も今後の原材料価格の高騰や入荷対応が困難になることを予測して納品を急がせたりと、多方面で不穏な空気になっている。店頭では高額品でもまとめ買いに走る動きも見られ、状況は芳しくはない。
×	乗用車販売店（経営者）	・いまだメーカーの回復策の提示がない。
×	旅行代理店（営業担当）	・ガソリン価格の高騰や海外情勢を背景に、レジャー産業は打撃を受ける。インバウンド需要も望み薄である。

	×	通信会社（経営者）	・中東情勢の影響により、あらゆる仕入コストが上がっている。塩化ビニール系の部材は、早々に供給不可となっている。ナフサの影響はかなり大きいのが、加えて円安が大きく物価を上げている。
	×	通信会社（局長）	・中東情勢の問題など世界情勢が不安定なため、大きな影響を受ける。
	×	ゴルフ練習場（経営者）	・中東情勢の沈静化までは消費者心理は冷え込む。
	×	住宅販売会社（経営者）	・エネルギー関連の原価上昇が予想され、全体的なコスト増加を売上に転嫁できるかが問題である。悪くなる要因はたくさんある。
	×	住宅販売会社（経営者）	・不動産に関する問合せが少なく、逆に閉店や閉業等が目立ってきている。
企業 動向 関連 (北関東)	◎	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・中東情勢の問題が解決され、ナフサを始めとした原油供給が落ち着くと予想している。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・新規案件の引き合いも増えているため、中東情勢が安定すれば良い方向に向かっていく。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・今が最低ではないかと考える。これ以上下がると困るし、これからは少しずつ良くなるとみている。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・原材料の値上がりが著しく、今後の製造、販売にどのような影響があるか心配である。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・世界情勢等の不安定な状況に改善が望めない。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・受注量がどんどん悪くなっていく気配がある。これからも同様に厳しい状況となる。
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	・米国の対応次第で2～3か月先はどうなるか分からない。良くてやや良くなるくらいではないかと考える。
	□	その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・物価高の状況なども、依然として続いている。
	□	輸送業（営業担当）	・夏場に向かい、エアコン等の物量は3割ほど増える予測である。また、パーベキュー等のレジャー用品なども前年並みを確保予定である。ただし、車両不足による用車費や人件費、中東情勢により燃料や材料価格の先行きも不透明であるため、不安もある。
	□	経営コンサルタント	・中小企業のなかでも、中東情勢の影響や原油等調達の変化による資材価格高騰の流れのなかで生じた前倒し発注や駆け込み需要の反動減が予想される。一方、短期的に足元の受注対策を打った部品製造業では、逆に今後の受注増加が期待されるところもあるため、全体的には業績の変化はほとんどない。
	□	司法書士	・地方の街なので、景気がどうかというより、ほとんど毎日、同じような日が続いていく。
	□	社会保険労務士	・夏のボーナスも大手企業は順調そうなので、何もなければこのまま順調にいきそうだが、原油関連製品やサービスは、この先どうなるのか不透明である。
	▲	食料品製造業（経営者）	・今後も更なる資材、材料費、人件費等の高騰が影響し、やや悪くなる。
	▲	食料品製造業（経営者）	・長引く中東情勢の影響により、いよいよ包装資材の値上げが始まっている。その他のコストアップ分も販売価格に転嫁するよう努力しているが、なかなか簡単には進まない。石油由来の原材料は代替がきかないため、価格に転嫁せざるを得ず、その可否が今後を左右する。
	▲	化学工業（管理担当）	・材料価格の高騰により、利益が圧迫されている。
▲	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・工場で使用するオイルやゴム手袋の入手に制限が掛かるなど、中東情勢の影響がじわじわと出てきている。主要取引先の生産は今のところ順調に進んでいるが、今後に不透明感がある。	
▲	建設業（総務担当）	・全体的な業務量が足りない。発注見直しを見ても、好転するような材料がない。	
×	金属製品製造業（経営者）	・資材不足解消のめどが立っていないため、悪くなる。	
×	電気機械器具製造業（経営者）	・生産が終了する製品や作業が減少する製品がある。中東情勢の影響により材料が入手困難となり値上がりが出始めている。	

	×	不動産業（管理担当）	・依然として続く資材の値上がりと、今後予想される資材の入荷遅延や出荷停止などから、業務に支障が出るおそれがあるため、売上の維持が問題である。
雇用 関連 (北関東)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（経営者）	・ゴールデンウィーク等での購買や客の動きは伸びていくとみているが、単価や購入する物の価格も上がっている分、購買力は鈍る。ガソリン等もなかなか価格が下がらない状況なので、財布のひもは固い。一般的に動きはインバウンド頼みになる。
	□	人材派遣会社（社員）	・企業側に50代以上の人材を採用してもらわないと需給バランスが保てない。
	□	人材派遣会社（管理担当）	・現状、派遣業は底の状態である。これ以上、採用が減るとクライアントにも影響が出るため、現状維持で変わらないと考えている。天候が暖かくなると、コンビニの麺類製造派遣が増えるが、生産予定は例年と変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数が、前年同月並みで推移している。
	▲	人材派遣会社（社員）	・仕事はあるにはあるが、人手不足で仕事が受けられないため、当社の経営的には、徐々に下がってきている。世界情勢も不安定な状況で、周辺の物産店に話を聞くと、当地域の入込客で、特に中国人は一時期減った影響がまだ残っているとのことである。世界情勢の変化で、段々とインバウンドも減ってきている。
	▲	学校 [専門学校]（副校長）	・企業からの情報によると、物価上昇分の製品への価格転嫁が難しいため、利幅がかなり縮小していくことが予想される。
	×	*	*